

# 根来山げんきの森倶楽部

令和7年2月作業日誌

活動日：令和7年2月16日(日) 9:30～15:00 天気：晴れ 倶楽部員：41人

厳しい寒波の訪れる中、ぽかぽか天気恵まれ作業日より1日となりました。新メンバーも参加して、ベテランの技と知識が脈々と受け継がれていく予感！冬季限定、人気のお味噌汁は来月が最終回です。皆様お見逃しなく、3月の活動にご参加ください。

## うるし谷整備

総勢7名でそれぞれグループに分かれて作業を行いました。

1. 竹には代表的な種類として孟宗竹や真竹がよく知られていますが、他にも多くの種類があります。  
以前に竹の名前を看板で表示していましたが、劣化が著しくなりましたので新たに10数件のうち新たに9件の看板を差し替えました。
2. こぶし川の護岸補修も行いました。川幅が狭くなっている箇所は川幅を広げ、川底が浅くなっている箇所は川底の土砂を拾い上げました。  
橋の箇所も川幅を広げた関係で兩岸を補強しました。全体的にはまだ岸の補強が未完成の箇所もあり、来月引き続き行う予定であります。
3. デッキ作業の製作は大工顔負けの棟梁が一人で黙々とされていました。
4. 楠木伐採後の整理では枝打ちを行ないました。（櫻井 敏夫）



## 味噌汁作り

先月に続き白菜等野菜類がまだまだ高くて野菜は少なめの味噌汁でした。比較的安いキノコをたっぷり入れ、香りの良い牛蒡は入れました。野菜が少なかったため、いつもと同じ量の豚肉がかえって目立ち喜んでもらえました。スタッフは3人でしたが、最近では手際が良くなりセティングも作るのも片付けもスピーディにできました。味付けはS夫人。いつも美味しく仕上げてください。（萬賀 伊津子）



## 炭焼き

2月の活動日は炭出しと次の炭材を窯に入れる作業の両方をしました。

足元がぬかるむ中、皆で炭を切っていきます。

今回が初めての方やお嬢さんも一緒に来てくださった方、少しずつメンバーが増えて楽しく炭出しができました。

今回の炭の量は約260kgでした。

場内にはまだまだ育ちすぎて周りを暗くしたり、景観を損ねてしまったり、危険があったり、そんな木がたくさんあります。

必要な手入れをしながら出た木を炭に焼くことで、森の恵みとしてたくさんの方に活動を知っていただくきっかけになれば嬉しいです。（森 留津）



## ゆきんコラム

森で作業を終えて帰ってくる姿がかっこよすぎて…！！この写真を見て思い出すのはアルマゲドン？Gメン75？荒野の七人？  
いずれにせよ、皆さん森のヒーローだ！！

**荒野の7人 1960年**

**Gメン75 1975～1982年**

**アルマゲドン 1998年**



## ロゴソール作業



先月に続きヒノキの製材です。ロゴソールとはチェーンソーを使う製材装置のメーカー名です。いつものメンバーOさんは肩痛のため欠席、4名での作業でした。先月は駐車場からバリアフリーのフェンス補修用の部材用でしたが、今回は少し薄い板を作りました。多分、本箱作りに必要になるだろうと考えてのことです。

森の広場に保存していたヒノキを炭小屋下の土場まで林内作業車で運び（里山整備のために炭小屋の車庫から上がってきた作業車を捕まえて運んでもらいました。Kさん、お手間をおかけしました。）、ロゴソールの台の上に4人がかりで載せ、バーの長さ70センチのチェーンソーで引き割ります。

午前1本、午後1本の丸太を引き、計10枚の立派な板が出来ました。流石にヒノキは堅く結構疲れました。（赤阪 進）



## げんきの森ペディア

～和の象徴的花木 ヤブツバキ～ ツバキ科ツバキ属

春の木と書いて椿（ツバキ）、この字は国字で、日本で作られた漢字です。

椿は花首から落ちるため、縁起が悪いと武士には嫌われていたようですが、万葉集の時代から和歌に詠まれてきた、日本の詫び寂びを表現するのに欠かせない花です。1800年代には西洋に渡って大ブームとなりました。かの有名なシャネルのブランドアイコンであるカメラアイコンは、ココ・シャネルが最愛の人から贈られたことをきっかけに誕生したそうです。



## 里山整備

最強寒波の合間でぽかぽか暖かい日差しのもとでの活動日となった。

里山整備での作業を行った。

土仏線でヤマモモの大木をメインにハゼ、クスノキ等を伐採し、その周りの炭材用のアラカシの伐採を進めた。

〇さんとIさんは終日入口を出て直ぐのヒノキとテイカカズラの伐採と整理などの地拵えを、師匠のAさんは我々の作業場直ぐとなりの擁壁上の急斜面を午前中一人で地拵えをしてくれた。

薪用のヤマモモが軽トラ3車、炭材用のアラカシ1車、チップー行きの枝葉が3車程を運ぶことが出来た。

朝の間は、林内作業車が無く人力または軽トラで玉切りしてくれた丸太等を引き上げた。

人力で引き上げられる様に細かく玉切りしてくれたTさんは大変だったと思うが…。

伐採したところは視界が開け、地拵えしてくれたところはすっきり気持ちの良い空間となった。

地拵えしたところにはヤマザクラ等を植樹予定との事で、今後の変化が楽しみである。

気持ち良い汗を皆でかき作業出来て楽しかった。

### 作業中Aさんからのアドバイス

丸太を転がす時は、谷側から押す（左）のではなく、山側から引き上げる様にする（右）方が良いとの事であった。

もし丸太が転がり落ちてきた時に、山側であれば逃げやすいが谷側からの作業であると手首を骨折する等ケガする危険性が高いとの事であった。

今後も諸先輩方から色々な事を学び安全第一で作業にあたり成長していきたい。（廣森 智彦）



昨年暮れから道普請の作業を始めています。歩道の谷側に丸太を並べ、杭で留めていく地道な作業です。時には痩せた歩道に土を運び埋めていくようなこともします。また、道端に邪魔な樹木が茂ってきている場所ではこれを伐採し、伐採した木を歩道に敷く丸太として活用もしています。

毎週1回の作業なのですが、一回の作業でできあがるのはせいぜい数十メートル。月に100メートルほどはできるでしょうか。わんぱくの森とふれあいの森の歩道延長は1000mほどなので、1年もかければなんとか形になるかなと思いながら続けている気の長い作業です。

道普請の終わった区間を歩いてみてください。いい感じの歩道が整備されています。都合のつく方は毎週水曜日の道普請をお手伝いください。お待ちしております。岡田 和久